2023 年度 国家一般職本試験（基礎能力試験）　講評

No.	科目	出題内容	正解	正答率※
1	文章理解（現代文）	内容把握	2	A
2		内容把握	3	A
3		内容把握	2	A
4		内容把握	4	A
5		文章整序	3	A
6		空欄補充	1	A
7	文章理解（英文）	内容把握	5	A
8		内容把握	2	A
9		内容把握	4	A
10		文章整序	5	C
11		空欄補充	2	B
12	判断推理／数的推理	論理（論理式）	3	A
13		論理（その他）	5	A
14		対応関係	4	A
15		試合	5	A
16		操作手順	1	C
17		順序関係	5	A
18		場合の数	2	B
19		立体図形の分割・構成	1	A
20		確率	1	A
21		整数解	4	A
22		平面図形の計量	3	C
23		覆面算	1	A
24		速さ	5	B
25	資料解釈	グラフ（構成比）	5	A
26		表（実数）	3	A
27		表・グラフ（実数）	4	B
28	時事	観光や文化等	1	B
29		科学技術等	4	A
30		金融等	1	B
31	自然科学	波・音	5	B
32		化学結合	1	A
33		バイオーム	3	A
34	人文科学	明治・大正時代の内閣	5	B
35		中世のヨーロッパ	2	C
36		環境問題	2	A
37		江戸時代の思想	4	B
38	社会科学	地方自治	2	A
39		選挙制度・政党	3	A
40		戦後日本経済史	3	A

講評

【文章理解（現代文）】　例年どおり、内容把握４題、空欄補充１題、文章整序１題の計６題の出題であった。全体の難易度も高くない。No.１の内容把握がやや正解が確定しにくかったかもしれない。しかし、４つの誤肢が明らかに本文に合致しないものであることからも、正答を選ぶのは難しくはない。全問正解できるとよいレベルである。

【文章理解（英文）】　内容把握３問，文章整序１問，空欄補充１問で全５問の構成に変化はなかった。内容把握の難易度が下がっており、落とせない問題ばかりであった。全体として難易度が下がっているが、No.10 の文章整序のみ正答率が４割に満たない難しい問題であった。

【判断推理】　空間把握も含めて合計７題出題された。全体的に難易度は昨年並みで、標準的な問題が並んだ印象を受ける。[No.12]については論理の問題であったが、対偶を使うことですぐに解くことができた。論理の問題は、選択肢毎に、用いる条件を部分的に決めて検討していくことが重要である。[No.13]と[No.15]の問題については、条件からすぐに決定できる部分が少なく、すべての場合を考えて条件に合わないものを消していく、全数調査法で解くことがポイントであった。[No.16]は操作手順に関する問題でややこしそうと思った受験者もいたと思われるが、３番目の操作がＢ、２番目の操作がＣと場合分けもせず決めることができたため、平易な問題であった。

【数的推理】　図形の計量も含めて合計６題出題された。全体的には昨年度並みで、[No.22]と[No.24]以外の問題は、過去問解きまくり①「数的推理・資料解釈」と②「判断推理・図形」の類題として取り上げられていたことから、取り組み易かったであろう。No.22 の図形の計量は少し難しかっただろう。ＥＣとMNの交点をＰと置いたとき、四角形ＥＢ′ＰＢは平行四辺形で、△ＥＢ′Ｐと△ＥＢＰが正三角形だと分かればできる問題であった。公務員試験は時間との勝負であるため、平面図形の計量の問題で方針が立たないときは、正三角形や直角二等辺三角形、30°、60°、90°の直角三角形がどこかに隠れていることを前提として問題を解くことも１つの攻略法であろう。No.24 のポイントは「単位の変換」であろう。問題文に従い単位から計算を追っていけば、時間を要するが１点取ることができたであろう。

【資料解釈】　例年どおり３題出題された。全体的には、計算をすべての項目について検討しないといけない最大・最小問題またはそれに類似する選択肢がなかったことから、昨年よりも平易になった印象を受けた。また、No.25 の三角グラフについても、Ｋマスターや過去問解きまくり①「数的推理・資料解釈」で類題が取り上げられていたので、本番でも解きやすかったであろう。

【時事】　観光・文化、科学技術、金融の３問の出題である。観光・文化は、文化面から世界遺産など、一般常識の範囲でも正誤の判断ができる選択肢がある平易な問題といえる。科学技術は、幅広く出題されているが、一部の選択肢には大きく報道されている出来事も掲載されていることから、時事対策ができていれば、正解肢を見つけられる問題である。金融は、私たちの経済社会活動に強く結びついた内容の選択肢が多く、日頃の時事対策で十分対応できる内容である。いずれの問題も基本レベルから標準レベルなので、３問中２問以上正解しておきたい。

【自然科学】　国家一般職試験となってから 12 年連続して、物理、化学、生物からの出題で定着している。例年どおり、３科目とも、やや細かめな知識も含めて問われていた。

物理：波と音について、日常生活の場面を含めた知識が問われた。数式が苦手な受験生でも、キーワードを中心とした言葉で理解しておくことが大切であるといえる。

化学：化学結合について、無機化学も含めたさまざまな用語の理解が問われた。細かい知識も含まれていたが、選択肢の誤りのところは比較的わかりやすかったため、取り組みやすかったようである。正解の選択肢の文章は、標準的な内容であったといえるが、知識があいまいだと他の選択肢と迷うところもあったかもしれない。

生物：バイオームについて、やや細かい知識も含めて問われたが、地理の気候、植生で学ぶ知識、一般常識で正誤の判断ができるところも多かったため、自然科学の中では一番正答率が高かった。

【人文科学】　日本史、世界史、地理、思想がそれぞれ１問の構成は変わらない。他の公務員試験の人文科学の難易度は年々、下がる傾向にあるが、国家一般職の問題の難易度は相対的に高い。地理の環境問題以外は、頻出分野、基本レベルだけでは対応できなかったと思われる。ただし、いずれの選択肢もきちんと全般的に学習をしていれば正誤の判断がつけられるものであったことから、国家公務員となっていきたい省庁が明確な人は、解きまくりをただ周回するのではなく、Ｋマスターテキストをしっかり学習しておけば得点ができる。

【社会科学】　例年どおり法学、経済、政治から各１問ずつの３問である。法学は、地方自治について問うものであり、典型的な問題といえる。政治は、選挙制度・政党について出題された。選挙に関係する分野は頻出分野であり、公務員を目指す者ならば、是非得点源としておきたい。経済は、第二次世界大戦後の日本経済史について基本的な知識を広く問う平易な問題である。いずれの問題も基本レベルの問題であり、３問全て正解しておきたい。

※　正答率（Ａ：60%以上，Ｂ：40%以上60%未満，Ｃ：40%未満）は，ＬＥＣ公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ（6/20 時点）に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は，ＬＥＣ公務員 Web サイトの専用ページ（https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/）にてご案内しています。

LEC東京リーガルマインド　公務員試験対策　複写・頒布を禁じます

0 001112 227354
KL22735